授業づくり研修講座　実践レポート

座間市立南学校　　氏名　佐藤　敏之

単元名　　第１学年　　「玄関扉」

実践のポイント（工夫）

・「論理的な文章」を書くための手段（思考過程）として、教科書内容を利用しながら、まず「三角ロジック」について学級全体で確認した。

・文章を論理的にまとめるための前段階である「取材」の行程を学級の友人と協力して行い、

　自分の“主張”を述べるための根拠となる“事実”と“理由づけ”とを学級全体で共有した上で、

　その中から自分の考えに一番合う材料を選択させ、作文を書かせた。

実践内容

|  |
| --- |
| ≪三角ロジックを利用して 「中学生のLINEの使用は免許制にすべきか否か」ということに対して賛成もしくは反対の主張作文を書く≫1. 表題のテーマについて、まず直観的にどちらの立場を取るかを考え、学級全体で共有する。
2. 「事実」として、LINEの機能やLINEをめぐって起きた出来事などを個人→全体の順序で考え、共有する。
3. 「理由づけ」として、LINEのメリット・デメリットを個人→班→全体の順序で考え、共有する。
4. 自分、班、他の班から出てきた考えの中で、自分自身が説得力のある文章を書くために良いと思うものを選び、実際に作文を書く。（必要な生徒は構成メモを利用する）
5. 書いた作文を学級の中で読み合う。
 |

振り返り（成果や課題）

＜成果＞

・書く上での材料を自分で考えるのではなく、友達と協力して考えさせることで、自らの意見の根拠となる「事実」「理由づけ」をどのように考えればいいのか、という思考過程を協同的に取り組ませることができた。また、他のグループが考えたものを使用しても構わないとしたことで、より良い材料を利用した上で、どのように自分の「主張」につなげていくか、という三角ロジックの構想過程に生徒の意識を焦点化させることができたように思う。

＜課題＞

・「材料集め」にポイントを置いて取り組ませた分、文全体の構成が生徒によってはまとまり切れておらず、自らの「主張」を述べるにあたっての「事実」と「理由づけ」の整合性が充分に取れていない生徒も見られた。現在も行っているが、今後も継続して、基本的な文章の構成力を培うために条件を課した１０分程度で取り組める短作文等で行っていけたらと思う。